

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着したグループホームを目指し、理念を意識してケアに取り組んでいる。職員間でも意見交換しながら日々の実践につなげている。	全職員が事業所の理念や運営方針を十分に理解しており、日々意識しながらケアサービスの提供に励んでいる。会議や毎日の申し送り時にはケアが事業所の方針に沿っているかどうか話し合いや確認をしている。理念を玄関や居間に掲げ、訪問者等に事業所の方針を示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンや区の演芸会などに参加し交流させて頂いている。又、中学生や高校生の福祉体験学習に活用されている。	役場が窓口となっているふれあいガーデンを利用し、ガーデンを利用している住民との交流がある。買い物や散歩に出かけると行き交う住民からも親しくさりげない声がかかる。小学校の音楽会や保育園の雛祭りに呼ばれるなど、年々、地域の人達との関わりが深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から直接相談を受けることもあり、病気の理解と支援方法について、お話しさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	率直な意見も伺えるので、参考にしてサービスの向上に活かしていきたいと考えている。	入居者家族、町会議員や民生委員などの地域住民代表、町担当職員、地域包括支援センター職員等をメンバーに今年度は2回開催している。会議では事業所の活動を報告し、参加者と話し合いを行っている。12月の会議では消防署員から高齢者施設の火災や避難など実例を交えた話を伺っている。会議録は全入居者家族に配布している。	運営推進会議の開催について参加者の皆さんとも相談しながら回数を増やしていくことを望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月現状報告を行い、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	町担当者とは定期的な訪問や電話などで連絡を取り、事業所の状況を報告したり相談している。町主催の介護保険事業所会議やケアマネ会議へ出席し様々な情報を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り方法を徹底し、一人ひとりの状況把握を行って、日中は鍵をかけずに過ごせるよう心がけている。	身体拘束に関する研修が繰り返し行なわれており、拘束の行為やその弊害を十分認識している。入居者が自由に普通の暮しが送れるよう、どんな時でも入居者の行動を制限しないケアに全職員で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職場会議などで虐待について学習し、虐待が見過ごされることがないよう注意をはらっている。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度を利用している方がいるので、後見人や包括の担当者に相談しながら支障のないよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際は、十分に話し合いを行い、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際、出来るだけ話をし、些細な意見も参考にできるように心がけている。	入居者の思いや希望等は日々の会話の中から受けとめ、運営に活かしている。家族の面会は月一回以上あり、職員は積極的に声をかけて意見、要望等を伺うようにしている。「ご意見箱」が玄関に設置されているが、家族等は思うことがあれば直接口頭で伝えている。頂いた意見や要望等は職員間で検討し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職場会議などでの意見や提案を参考にして、業務を行うようにしている。	職場会議や日々の申し送りで意見や提案を伝えている他、連絡ノートにも気づいたことを記入し職員間で共有している。管理者から職員に声をかけ意見を求めたり、逆に職員から管理者に直接申し出ることも日常的にあり、職員間の意思疎通は良好である。法人の理事長も年2回事業所を訪問し、職員と直接話をする機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれの希望を考慮しながら、やりがいを持って働き続けることが出来るよう、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多くの職員が、法人内外の研修を受けることが出来るよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯田下伊那地区のグループホームの会に加入し、様々な取組を参考にしながら、質の向上に向けて取り組んでいる。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家庭を訪問し、生活状況の把握に努めている。本人や家族からよく話を聞き、思いを受け止めて信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記方法により、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を伺うと共に、ケアマネージャーともよく相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者や職員の繕いものを、縫製の得意な方が繕ってくれ、大変助かっている。共に支えあえる関係作りに留意しながら関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子や思いを折々連絡し、絆を深めたいという思いで接している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚の方と行き来出来るよう支援している。	入居後も馴染みの人々や通いなれた場所との関係が継続できるように家族の協力を得ながら積極的に支援している。お盆やお正月などには帰省の機会を設けながら近所の親しい人達ともふれ合えるように取り組んでいる。知人や友人が面会に見える入居者もいる。同じ法人が運営する近くのデイサービスを利用している知人がおり、そのデイサービスに訪ねている入居者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となって支援している。一人ひとりの個性や心身の状態、気分、感情の変化などに配慮するように努めている。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や言葉に出来ない思いを、行動や表情から汲み取る努力をしている。	自分の思いを言葉で伝えることが出来る入居者であっても本人が気軽に話ができるように職員が個別に話を聞くなどの配慮をしている。意思表示が難しい入居者には日々の様子やしぐさなどから本人本位に日々の支援方法を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族だけでなく、今までのサービス提供事業所からも情報をいただくなどして、今までの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの体調、状態、思いに配慮し、支援している。個性を大切にしたいと思っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえて作成し、作成後家族に説明して了解をいただくようにしている。職員の意見、気付き、アイデアも取り入れている。	本人や家族の意向をもとに入居者が本人らしく暮らせるように皆で話し合いながら介護計画を作成している。評価は毎月、見直しは概ね3ヶ月毎に行っているが、本人の状態や意向等に変化があれば随時見直しを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、業務日誌、連絡帳などを活用し、情報の共有を図り、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通所サービスの利用はもちろん、出来る限り要望に応えられるよう、時には勤務体制も変更しながら対応している。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方と連携し、地域サロンへ参加させて頂いている。区のお祭りの際は、獅子舞が披露に立ち寄ってくれたり、演芸ボランティアの方が来て下さって楽しい時間を過ごすこともあった。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医師や協力病院の医師による、適切な医療の提供ができています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。定期的に往診があり入居者の健康管理が行なわれている。また、看護師が各ユニットに配置されており、日々バイタルチェック等を行い、変化等あれば主治医に相談している。通院や受診に家族が付き添う場合、変化等あれば書類を作成し適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を中心にして病状の把握を行い、受診や看護につなげている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も時々見舞い、本人の様子を見たり、病院関係者との治療の見通しや退院後の生活についての相談を行うようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化対応同意書を交わしている。状態の変化に合わせ、その都度相談しながら支援している。	契約時に事業所の方針を十分に説明した上で同意書を交わしている。重度化や状態の悪化など変化が生じた場合には主治医、家族等との相談や話し合いを繰り返している。本人や家族に納得していただき、悔いることのないように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を実施したり、事例の検討会を行いながら身につけている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や防災講習会を開催した。また、今年度は地元の消防団と合同で消防訓練を実施した。	年2回、消防署の協力の下、昼夜想定 of 防災訓練が行なわれている。訓練の際には毎回入居者も参加し、職員の誘導を受けながら避難している。消火器の取り扱い、通報訓練も同時に行なわれおり、スプリンクラーも設置されている。近くには同じ法人が運営する小規模多機能型居宅介護事業所やデイサービスがあり、万が一のための連携体制が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の家族、外来者に対して、個々のプライバシーが守られているよう意識して対応している。	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない声掛けやさりげない対応を行い入居者が気分良く過ごすことができるように努めている。個人を尊重することや守秘義務について職員は十分理解し徹底がされている他、ボランティアや実習生等に対し事業所の方針を伝えた上で受け入れをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々のご本人の思いを大切にしている。ゆっくり分かりやすい声かけをして、自己決定出来るようにと支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムはあるが、その日の思いや体調を考慮しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の好みや意向に添って行うようにしている。髪などの乱れは、さりげなくブラシを渡したりお手伝いして、整えるよう気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で、買い物や食事作り、片づけは職員と一緒にしている。誕生日には好物を献立に取り入れ、楽しく召し上がっていただけるようにと配慮している。	食事の準備や片付けの手伝いができるかどうかについて職員が入居者一人ひとりの力量を把握しており、張り合いや生き甲斐につながるよう場面作りに努め一緒に行っている。入居者の好きな食べ物や自分たちで作った野菜を使った料理、馴染みの家庭料理など、四季折々のメニューを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取状況や訴えを考慮し、量や形態の工夫をしている。水分量が確保できるよう、ムセのある方にはトロミをつけて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うようにしている。		

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、本人の生活リズムに添ったトイレ誘導を行っている。一人ひとりのサインを見逃さないようにし、さりげなく支援するようにしている。	一人ひとりの排泄リズムやパターンを職員が把握しており、本人の様子を見ながらさりげなく声掛けし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行なっている。夜間は本人の睡眠を妨げないようにパットなど介護用品を工夫しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を意識している。ヨーグルトなどの乳製品をおやつに出したり、水分も不足しないように気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	仲の良い者同士と一緒に入浴することもある。無理強いするのではなく、タイミングをみて声かけすることで、気持ちよく入浴していただけるようにと考えている。	お風呂は毎日準備し、本人の入浴したい時に入れるようにしている。昔からある菖蒲湯や柚子湯、様々な入浴剤を入れ楽しんでいる。入浴や着替えを嫌がる方でも湯に浸かると機嫌がよくなり、のんびりと入浴できている。状態によっては安心して入浴できるよう二人介助で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に応じて、ゆっくり休息を取って頂いている。希望される方には湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方が変更になった時は、状態の変化を見逃さないよう注意深く見守り、看護師に伝えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、裁縫、食事の準備など、得意なことをやりながら自然に役割分担が出来ている。歌を歌ったり、手芸を楽しんでいる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品の買い物に出掛ける方やサロンに出掛ける方など、個人差はあるものの、希望に添えるよう支援している。	気分転換や運動のために戸外に出るようにしている。季節ごとに地域で開かれるイベントへの参加や四季折々の自然を楽しむドライブなど積極的に外出の機会を設けている。本人の希望があれば家族とも相談しながら買い物などの外出支援を行っている。	

グループホームコスモス松川・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら行っている。施設で管理している方も、そのお金をもって買いたいものを買いに掛けるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて気軽に電話で話したり、手紙を出すことが出来ることは、心穏やかに過ごすことにつながると考え支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾るようにしている。また、手芸の好きな方たちが制作した作品を展示し、潤いのある生活空間作りを心掛けている。	食堂兼居間には入居者が一緒にくつろげる広いテーブルがあり、その上には元気に泳ぐ小魚が入った小さな水槽が置かれている。この場所で一日の多くの時間を入居者と職員と一緒に過ごしている。壁には地区の高齢者の集まるサロンに出かけて作った小物やリースが飾られ、外出時の写真、大勢の小学生から届いた音楽会への招待の手紙などが張られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のお気に入りの場所、落ち着ける場所で過ごす時間を大切にしたいという思いで見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を置いて頂くようにしている。家族の写真、町のふれあい広場へ出店した品などを、思い思いに飾っている。	これまで馴染んで使っていた家具類やテレビ、家族の写真などに囲まれながら、自宅の雰囲気を感じつつ過ごせるよう工夫されている。毎朝、先に旅立たれた家族の写真に手を合わせることから一日が始まる入居者もいるという。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化を考慮し、居室内の家具の位置を検討し、安全で自立した生活が送れるようにしている。		